



松戸市立総合医療センター

医療連携 News

第222号 (2026.6)



新年度を迎えて

昨年新たに松戸隆政市長が就任され、市政の改革とともに松戸市立総合医療センターの経営改善を進めていく方針のもとで、私こと尾形 章は昨年9月に病院事業管理者を拝命いたしました。

私は旧松戸市立病院時代から通算で32年間松戸市立総合医療センターに従事し、新病院の建設、運用さらには病院の内部について誰よりも深く携わり、コロナ感染症が流行の最中となった最後の4年間には病院長を務めてまいりました。市民の皆さんも大変な思いをされたことと存じます。また、病院スタッフにも本当に大変な苦勞をかけ今でも感謝をしているところです。

私どもの病院は地域の基幹病院として民間病院ではなかなか行えない小児・周産期・新生児医療、3次救急医療などを行ってまいりました。こうした医療を今後とも継続し、松戸市民のみならず東葛北部医療圏の医療を支えるべく、地域の医療機関の皆さんの協力を得つつ、職員一丸となり職責を全うしてまいりたいと思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



病院事業管理者 尾形 章



新年度 ご挨拶

日頃より当院を支援していただきましてありがとうございます。

昨今は、病院の経営問題が浮上し、皆様には何かとご心配をおかけしております。本年度は新たな経営計画のもと、病床削減や稼働率向上等の目標を掲げ、病院一体となって運営・診療に取り組んでおります。当院としましては、地域医療支援病院として、引き続き地域の先生方とより密接な連携を図り、地域完結型の医療を推進して参りたいと考えております。

新年度となり体制の変更となった診療科もありますので、地域の先生方にそれぞれの診療科の現状をお伝えするとともに、より一層患者さんに安心と信頼をお届けできる病院作りに努めて参りたいと考えております。

当院は、すべての人に「来てよかった」と思われる病院を目指しますという基本理念のもと、今後も地域医療に貢献していく所存です。どうぞ今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

病院長 岡部 真一郎



就任のご挨拶



この度、乳腺外科部長を拝命しました、坂田治人と申します。私は1991年（H3）東邦大学卒です。元々外科医志望でしたが最初に麻酔科・救急医学を3年間研鑽し1994年に千葉大学第二外科学教室に入局。消化器・肝胆膵・乳腺・甲状腺外科全般を修練し2017年頃から乳腺専属となりました。

この25年で乳癌診療はめまぐるしく発達し、同時に新薬も多数開発されました。当院はがん拠点病院として地域の乳がん診療の中心となり、専門スタッフと共に患者個人に最適な治療選択を勧めていきたいと思えます。そして乳癌治療は外来通院が長期間に及ぶためスムーズな投薬やフォローアップのために周囲の先生方と情報共有し、患者に寄り添う連携体制を作っていけたらと考えております。また、地域医療の中核として二次健診も広く受け入れておりますので、皆様からのご紹介をよろしくお願い申し上げます。



乳腺外科 部長
坂田 治人

この度放射線診断科部長を拝命しました渡辺佳明と申します。私は1996年に北海道大学を卒業し、同大学の放射線医学講座（現：画像診断学教室）に入局しました。いくつかの大学病院および市中病院、画像診断センターなどを経て、こちらに勤務することとなりました。

専門は腹部骨盤および運動器（特にスポーツ整形）の画像診断およびIVR（Interventional Radiology）です。近年、診断補助として画像評価にAIを活用する施設が増え、診断の効率および精度（見落としを少なくする）が向上しています。このような進歩に当施設もついていければと思います。また地域の先生方からのご要望（CT、MRIなどの画像検査）にも応えていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



放射線診断科 部長
渡辺 佳明

この度、泌尿器科部長を拝命いたしました金坂学斗（かねさかまなと）と申します。北川憲一前部長の後任として、身の引き締まる思いで診療にあたっております。

これまで千葉大学医学部附属病院、帝京大学ちば総合医療センター、千葉労災病院等で研鑽を積み、昨年度より当院に赴任いたしました。当科では前立腺がんに加え、昨年度より膀胱がん、腎がん（部分切除術・全摘除術）、腎盂尿管がん、腎盂尿管移行部狭窄症に対しロボット支援手術を導入し、診療体制の充実を図っております。血尿、PSA高値、画像異常など、悪性疾患が疑われる症例につきましては、精査のみのご相談にも対応しております。あわせて排尿障害、前立腺肥大症、尿路結石症などの良性疾患にも幅広く対応しておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



泌尿器科 部長
金坂 学斗

このたび、内視鏡センター長を拝命いたしました西川貴雄と申します。微力ではございますが、これまで培ってきた経験を生かし、センターの発展と地域医療への貢献に尽力する所存です。

私はこれまで、胆道・膵臓領域の内視鏡治療を専門に、ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）を中心とした診療・研究に携わってまいりました。近年は、ERCP困難例に対するInterventional EUS（超音波内視鏡処置）による胆道ドレナージにも力を入れ、安全で確実な治療体系の構築を進めています。また、食道・胃十二指腸・大腸といった消化管悪性狭窄に対するステント留置も増加しており、患者さんのQOL向上に寄与できる低侵襲治療の選択肢が広がっています。さらに、早期癌治療の充実を目指し、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）症例の拡大にも取り組んでいます。

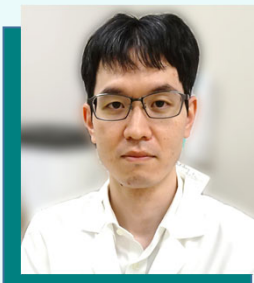
センター長として、患者さんにとって最善の医療を提供するとともに、若手育成とチーム医療の強化を通じて、地域医療の発展に貢献していきたいと考えております。今後ともご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



内視鏡センター長
西川 貴雄

この度、血液内科部長代理を拝命しました田波貴彬と申します。私は2016年に千葉大学を卒業後、茨城県での初期研修を経て2018年に千葉大学血液内科に入局し、以後千葉県内の中核病院で研鑽を積んで参りました。

当科では、急性白血病（特に高齢者）、慢性白血病、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性疾患、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液腫瘍をはじめ、自己免疫性溶血性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症、再生不良性貧血などの赤血球系疾患、免疫性血小板減少症などの血栓・止血領域疾患に対して診療を行っております。患者様やご家族には、見通しも含めて分かりやすい説明を心がけており、各医療機関の先生方と連携しながら地域の医療に貢献すべく努力して参ります。どうぞよろしくお願い致します。



血液内科 部長代理
田波 貴彬

このたび、地域連携室長を拝命しました西村寿貴と申します。脳神経内科部長として診療従事していましたが、このたび外来の入り口である地域連携室長を兼務することとなりました。

皆様ご存じの通り当院の経営状態は厳しい状態ですが、当院でしか診療できない診療科も擁しており、地域に必要な病院と信じております。

今まで諸先生方の期待に答えなかったこともありますが、少しでも改善するべく汗をかいていく所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。



地域連携室長
西村 寿貴

令和8年度も、私ども地域医療連携局はPFMを推進し、各分野のスペシャリスト(多職種)がさらに充実した医療サービス、支援を提供し、地域の皆さまとの懸け橋となるよう努めて参ります。引き続きご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

